

印西大師 番外 行徳新田・稲荷堂（大日堂）

- 名称 (No.121/235)〔手引鏡：稲荷堂〕〔資料館：稲荷堂〕〔行程表：稲荷堂〕
- 場所 印西市行徳20 一区コミュニティセンター
下曾根新田・大日堂（下曾根大師）から道程約250m
GPS座標 35.81340326261339, 140.2088579211856
- 由緒 天台宗 大日庵
行徳新田字上にあり 天台宗にして福聚院持なり 大日如来を本尊とす 由緒不詳 檀徒14人（印旛郡誌）
- 御堂 「大日堂」と「一区コミュニティセンター」が合築され、建物の左側に大日堂の格子窓があり、御大師様を参拝できる。中に丸彫りの御大師様が2体あり。また、外の石祠にも御大師様が1体あるので、計3体ある。
- 境内 大日堂のほか、庚申塔などの石造物がある。隣は稲荷神社で、脇に八坂神社の御堂がある。
- 写真 (2022.11撮影)



大日堂の格子窓



御大師様



御大師様(文政13年)



大日堂・一区コミュニティセンター



石柱内蔵の御大師様



石柱内蔵の御大師様(明治13年)



稲荷神社



八坂神社(左)と稲荷神社(右)



八坂神社の御堂の中の八坂大神

7 情報

(1) 文政13年の御大師様

建物内の右の御大師様には印西大師が再興された文政13年(1830年)の銘があり、また、石柱内蔵の御大師様は明治13年の銘がある。(印西市調査報告書・本塾)

(2) 大日堂の看板

稲荷神社があるので、ここが「行徳新田・稲荷堂」と考えられるが、一区コミュニティセンターの建物の看板の横には「大日堂」の看板が掲げられている。大日堂とコミュニティセンターが合築されたようだ。

(3) 稲荷神社と大日庵

本塾村誌によると、「村社稲荷神社」は、大字行徳字道上貳拾番地にあり 稲蒼魂命を祭る 由緒不詳 本殿間口貳間奥行参間 境内六拾坪 檀徒貳壹(21)戸 境内二社祭る、八坂神社、浅間神社とある。八坂神社もあるので、まさにこの場所に間違いない。

また、「大日庵」が、大字行徳字上にあり 天台宗にして福聚院持なり 大日如来を本尊とす 由緒不詳 堂宇間口三間奥行二間 境内拾坪 檀徒20人とあり、印旛郡誌にもこれとほぼ同様の記述がある。ここにも大日庵があるが、隣の札所の市杵島神社の大日庵は笠神の南陽院持ちであるのに対し、ここは中根の福聚院持ちとなっている。稲荷神社のある場所の現在の小字名は印西市行徳字上であることから、ここが行徳新田・大日庵と考えられる。なお、「稲荷堂」については本塾村誌にも印旛郡誌にも記述がない。

手引鏡の書かれた明治初期には「稲荷堂」と呼ばれていた建物があったのかもしれないが、現在はそのような名称の御堂が見当たらない。それにもかかわらず印旛歴史民俗資料館の「印西大師巡拝順路図」(2001年加筆)には「行徳新田・稲荷堂」と表示されている。稲荷堂とは、稲荷神社の境内にあって大日如来を祀っている御堂、つまり大日堂(大日庵)のことであろうか。大師巡りでは隣に下曾根新田・大日堂があるので、こちらは大日堂ではあるが稲荷神社があるので稲荷堂と呼んで区別したのだろうか。そのため建物が新しくなって「大日堂」の看板を掲げていても大師巡りとなると今でも稲荷堂と呼んでいるのかもしれない。(推測)

(4) 大日堂が遷座?

稲荷堂らしき御堂がないので、隣の下曾根新田・大日堂がここに遷され、行徳新田・稲荷堂の御大師様と一緒に「今日では隣り合わせ」になっているとの見解がWeb上に見られる。

この見解は、下曾根新田・大日堂と行徳新田・稲荷堂は、もともと約200m離れていたが、一区コミュニティセンターの建物の整備に伴い、下曾根新田・大日堂の御大師様がここに移され、行徳新田・稲荷堂の御大師様と一緒に同じ建物の中で「今日では隣り合わせ」になっているということのようだ。確かに建物の中に御大師様が2体あるうえ大日堂の看板が架かっているのです、そう言われるとそうなのかもしれないと思えてくる。

しかし、下曾根新田の御大師様が遷座されていたら、印西大師巡りで「下曾根新田」はパスしてよいと思われるが、平成28年度印西大師順路行程表の「南陽院」の次は「下曾根」、その次が「行徳新田」となっている。つまり現在でも「下曾根大師」講の額が掲げられた大師堂の御大師様を巡拝している。また、建物に「大日堂」とあるが、これは「行徳新田・大日庵」のことではなかろうか。とは言ってもこれは推測に過ぎないので、このあたりの事情のわかる方にお話を伺いたいものである。